

## ■教育行政のポイント

### “次期教育課程改定”を中教審に諮問

菱村 幸彦

11月20日、文部科学省は、中央教育審議会に対して「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」について諮問した。いよいよ次期教育課程の改定作業が始まる。

#### 新しい時代を生きるための資質・能力

今回の諮問で特徴的なことは、諮問理由の中に、改定の方向性をかなり書き込んでいることだ。例えば、アクティブ・ラーニングの導入、小学校英語の教科化、高校日本史の必修化、高校の公民教育のための新教科など、具体的な改善案が提示されている。

その詳細については諮問文をご覧くださいと、ここでは、今回の諮問のキーワードともいえる「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力」について取り上げたい。

諮問文は、「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育てていくことを目指し、未来に向けて学習指導要領等の改善を図る必要がある」と述べ、これに関連して、(1)OECDのキー・コンピテンシー、(2)国際バカロレアのカリキュラム、(3)ユネスコのESD——の三つを挙げている。で、これらが示す資質・能力について見てみよう。

第1は、キー・コンピテンシー。OECDは、PISAとの関連で、2003年に個人的・社会的に求められる能力として、キー・コンピテンシー（主要な能力）の概念を示した。OECDは、キー・コンピテンシーについて、(1)社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（言語・シンボル・テキストを相互作用的に活用する能力／知識や情報を相互作用的に活用する能力／テクノロジーを相互作用的に活用する能力）、(2)多様な集団における人間関係形成能力（他人と円滑に人間関係を構築する能力／協調する能力／利害の対立を処理し解決する能力）、(3)自立的に行動する能力（大局的に行動する能力／人生設

計や個人の計画を作り実行する能力／権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力）と説明している。

#### 「生きる力」と方向性は同じ

第2は、国際バカロレア。国際バカロレアのカリキュラムでは、目指す人間性として、[1]探求する人、[2]知識のある人、[3]考える人、[4]コミュニケーションができる人、[5]信念をもつ人、[6]心を開く人、[7]思いやりのある人、[8]挑戦する人、[9]バランスのとれた人、[10]振り返りができる人——を挙げている。

第3は、ESD。ESDは、2004年の国連の決議に基づき、ユネスコが主導している「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)で、有限な地球上で無限な成長は不可能であることを認識して、次世代のニーズを損なわない持続可能な社会づくりの担い手の育成を目指している。ESDでは、「育みたい力」として、[1]持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)、[2]体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)、[3]代替案の思考力(批判力)、[4]データや情報の分析能力、[5]コミュニケーション能力、[6]リーダーシップの向上を掲げている。

これらの三つの取組が求める資質・能力は、現行学習指導要領が定める「生きる力」の育成と方向性において違いはない。となると、次期改定でも「生きる力」が重視されるのではないか。

学習指導要領の改訂では、知識基盤社会やグローバル社会において求められる資質・能力がどうあるべきかを検討した上で、新たな教科・科目の在り方や既存の教科・科目の目標・内容の見直しが行われることとなる。

(ひしむら・ゆきひこ＝国立教育政策研究所名誉所員)

## ●小中20人の校長が人生の門出に立つ子どもたちに心を込めて贈った渾身のメッセージ《12月18日刊》 子どもたちに、いま伝えたい入学式・卒業式の校長式辞52選

教育開発研究所編 A5判・184頁／定価(本体2,200円)＋税